

漢語
解

荻田長三編

普通

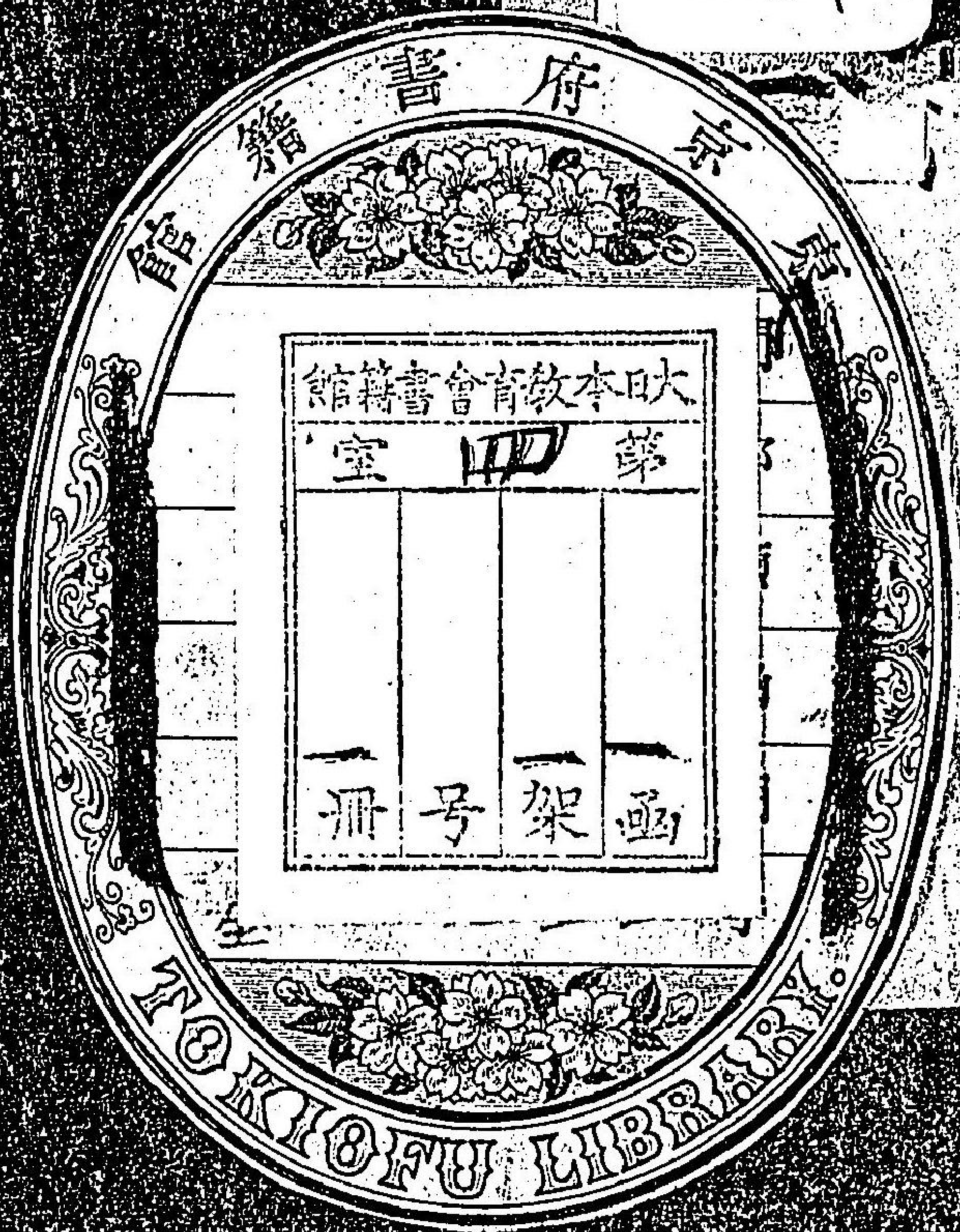
用

文章

全

特33

259



079944-000-3

特33-259

漢語訳解普通用文章

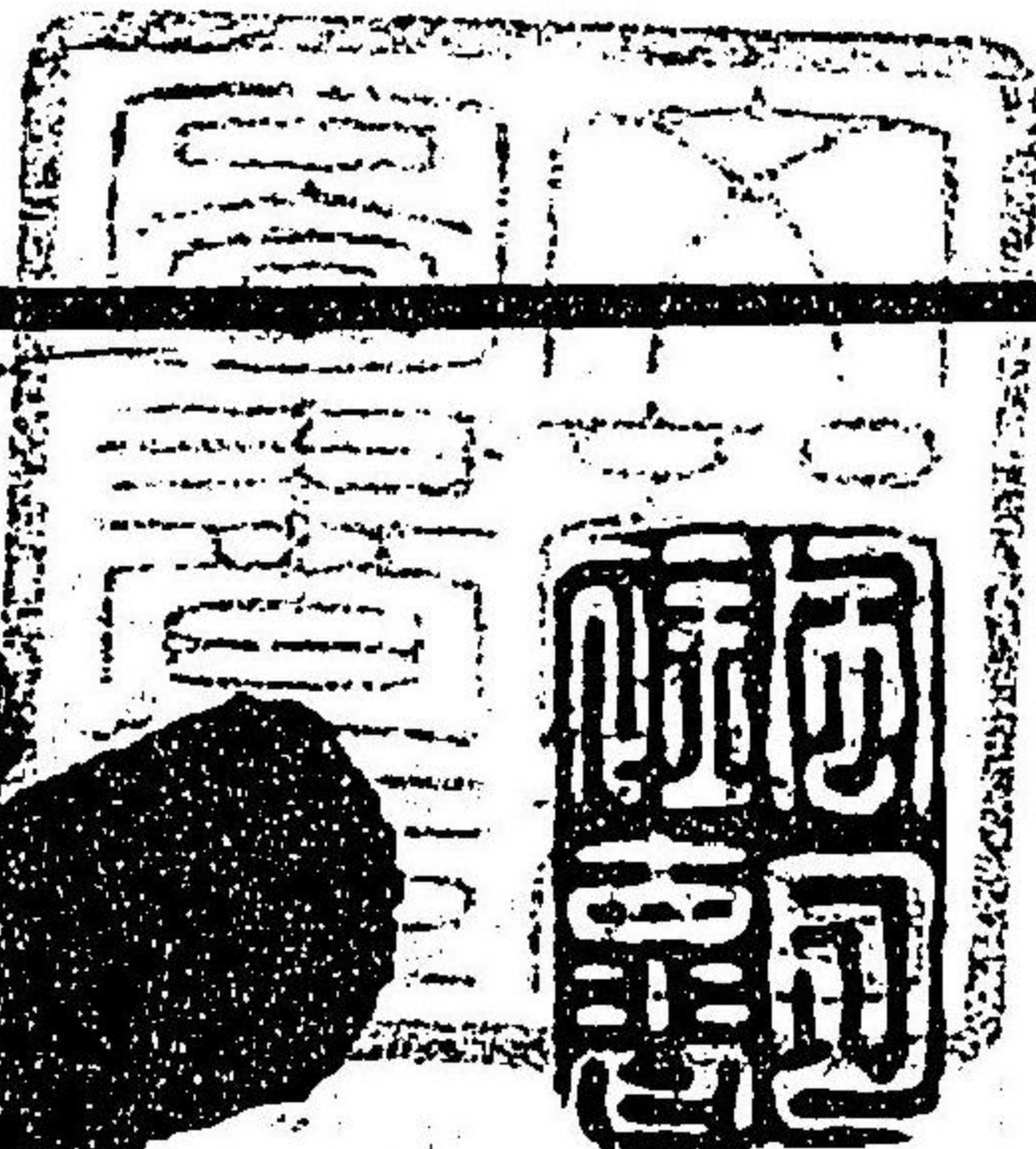
荻田長三編

M7.8

DAC-4055



特33
259



漢語

明治五壬申晚夏刊

漢語

譯解

荻田長三編輯
普通用文章

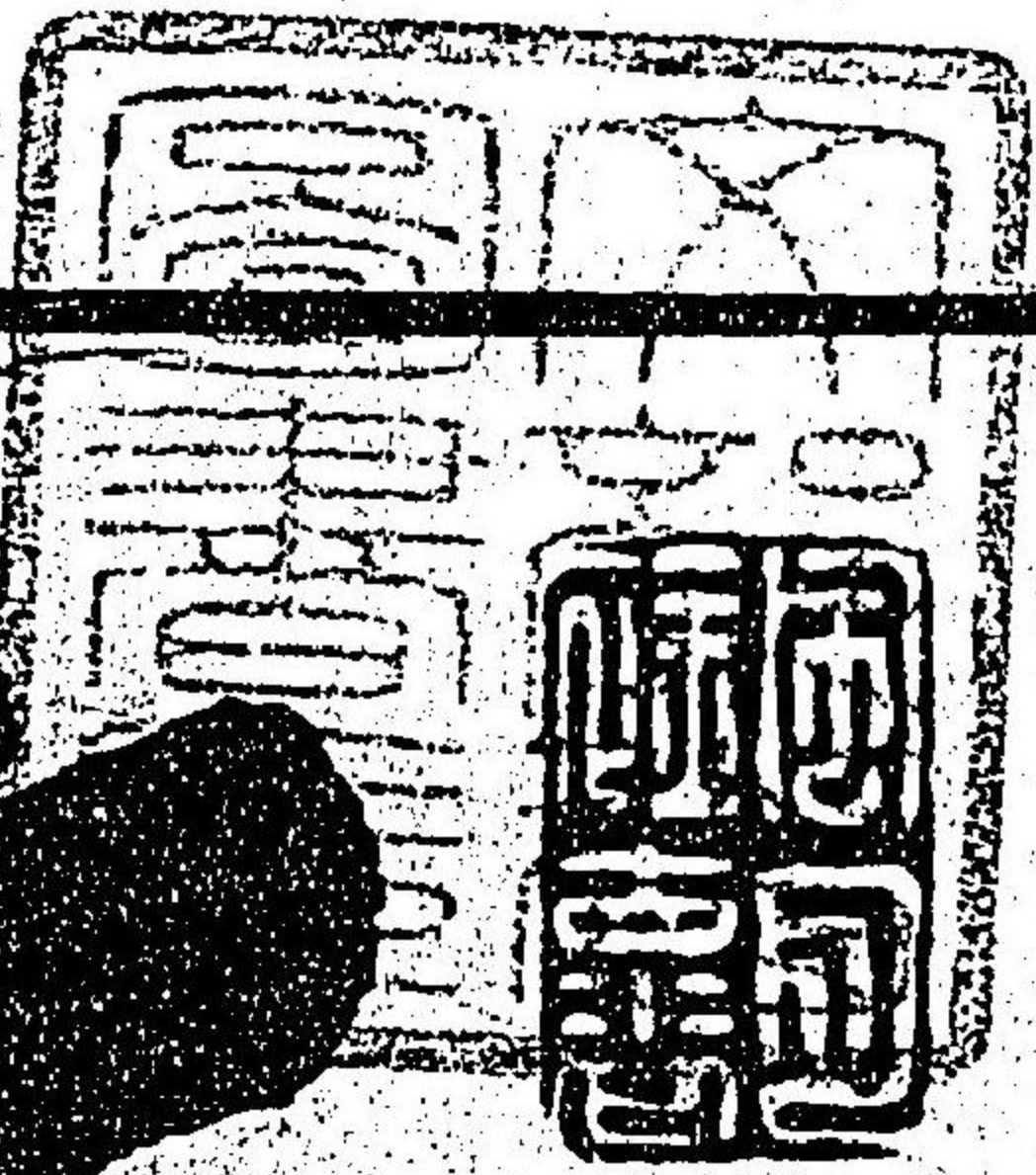
浪華

寶文堂藏梓



明治七年八月再刊

特33
259



普通文庫

普通文庫

明治五壬申晚夏刊

漢語

譯解

荻田長三編輯
普通用文章

浪華

寶文堂藏梓



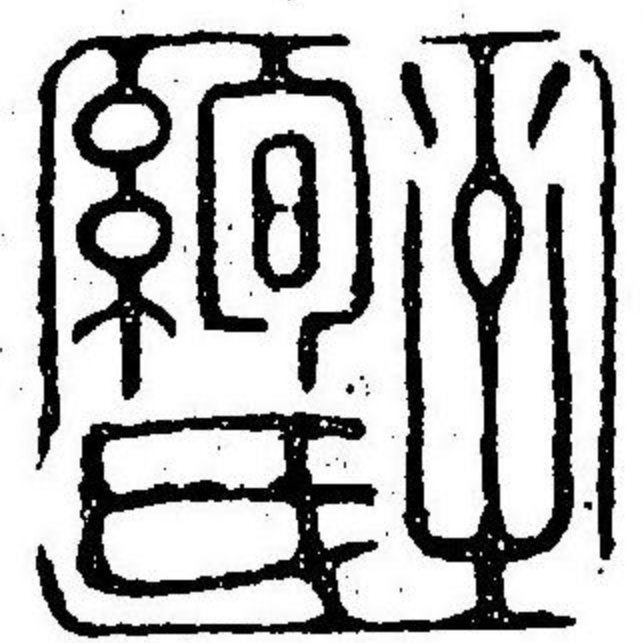
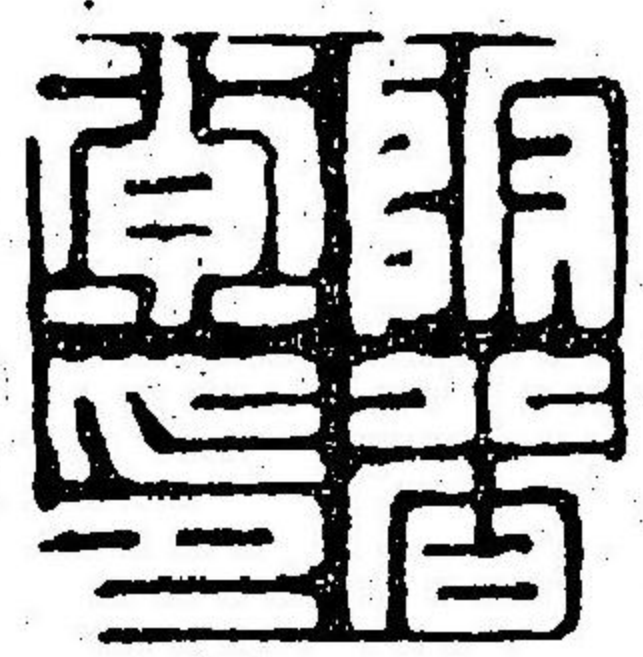
明治七年八月再刊

和

和

壬申夏

胡厚主人



手簡端本之流囑承志結
和精之核別古法存不
中之世元末代面之也此
不濛易之管箇之也等
情能之通下之方專一之在
函朱流行之濛語難用

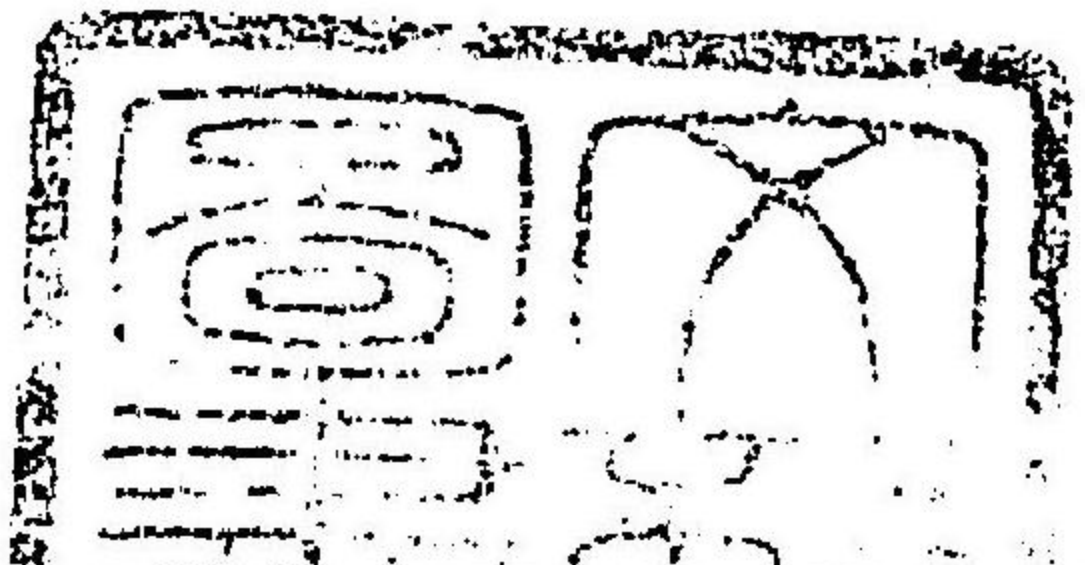
臨分便利之其過之
容易之通下之於之俗語
俚言之上地方之孝
然其欠之依之雅俗
童蒙婦女之通下
其光普通之極簡之綴
其意之以上余之拜看之何孝
款句

敬夫

寶文堂板

山陽其蓋湖米尾法中
控本頗多之何事之天

集絶学之出臨学可然
 有以又白



形
異稱

正月

正月

端月

止月

王春

月

朔日

元日

上日

普通用文章目次

四季部

年南文

右の書

節寒見舞文

一丁

二丁

三丁

普通用文

目次

鶏日

三日

夏正三

田

生日

五日

破五日

開

市

燒利市

七日

人日

人勝

節

上會日

有ふ後する文

五丁

人日有人を招く七丁

有し後する文

八丁

桃毛並社後の書九丁

有し後する文

十丁

十五日

上元節

元

宵元夜

燈夕

二月

如月

仲陽

今月

氷

泚月

花月

十五日

撲蝶會

涅

看梅を後する文十一丁

有し後する文

十二丁

秘中友人あつ書十四丁

有し後する文

十五丁

初詣年祝を後する文十七丁

祭會

社日 二

春社 社會

三月

未春、春晚

花時、桐

月、竹秋

抄春

三日

元巳

上巳

六之役書

十八丁

梅の人の折文

十九丁

右の折の書

廿一丁

右の折の書

廿三丁

右の折の書

廿四丁

節、重三

修禊日、曲

水飲

十五日

玄壇神誕辰

四月

清和月、麥

秋、余月

農月、榴月

五月

六之役書 十八丁

梅の人の折文 十九丁

右の折の書 廿一丁

右の折の書 廿三丁

右の折の書 廿四丁

節、重三 廿六丁

修禊日、曲 廿七丁

水飲 廿九丁

玄壇神誕辰 三十丁

四月 三十一丁

清和月、麥 三十一丁

皋月、暑月、

仲暑、午

月、蒲月、

五日

端五、端午、

重五、天

中節、競渡

日、

十三日

龍生日、竹

後書

三十二丁

看月は書

三十四丁

有後

三十五丁

重陽の祭文

三十六丁

日か

三十八丁

書畫會社をたの

三十九丁

了

七月の祭文

四十一丁

八月の祭文

四十三丁

同祭文

四十四丁

日、醉日、竹迷

十五日

大端陽節

夏至

朝節

六月

且月、長夏、

祖暑、伏月、

未夏、

音通月大

目次

四

三伏

の土用

伏日

三庚

七月

上秋

蘭秋

首秋

涼月

開秋

瓜月

七日

巧夕

七夕

星節

十五日

中元

盂蘭

盆會

八月

壯月

仲商

桂月

竹春

十五日

中秋

月夕

移花日

看

月會

九月

開館ふわく書

とらふ書

有る書

室中何紙の物

公後書

親雪海ひの草

書か

系末の書

なまひす

雑の部

普通

十二月

九月

十月

十一月

十二月

正月

二月

三月

四月

五月

六月

七月

八月

九月

十月

十一月

十二月

正月

二月

三月

末秋

菊月

重陽

九

九

九

九

九

九

九

九

九

九

九

九

九

九

九

九

九

春の人の心 五十八丁

春の人の心 五十八丁

春の人の心 五十八丁

春の人の心 五十八丁

春の人の心 五十八丁

春の人の心 五十八丁

春の人の心 五十八丁

春の人の心 五十八丁

春の人の心 五十八丁

春の人の心 五十八丁

春の人の心 五十八丁

春の人の心 五十八丁

春の人の心 五十八丁

春の人の心 五十八丁

春の人の心 五十八丁

春の人の心 五十八丁

春の人の心 五十八丁

春の人の心 五十八丁

春の人の心 五十八丁

春の人の心 五十八丁

五十八丁

五十八丁

五十八丁

五十八丁

五十八丁

五十八丁

五十八丁

五十八丁

五十八丁

五十八丁

五十八丁

五十八丁

五十八丁

五十八丁

五十八丁

五十八丁

五十八丁

五十八丁

五十八丁

五十八丁

五十八丁

五十八丁

五十八丁

五十八丁

五十八丁

五十八丁

五十八丁

五十八丁

五十八丁

五十八丁

五十八丁

五十八丁

五十八丁

五十八丁

五十八丁

五十八丁

五十八丁

五十八丁

五十八丁

五十八丁

嘉平月、臘

月、暮歲

三十日

除日、歲除

守歲

每月日異稱

朔日

上日、月朔

初吉、朔

旦、初一

二日

既朔

十日

旬日

十四日

幾望

十五日

望、望日

月半

有返晉

七十三丁

物を傍多馬

七十八丁

右返馬

七十九丁

水返馬

八十丁

同返馬

八十一丁

病氣見書

八十三丁

有返書

八十四丁

新返賀文

八十六丁

後書

八十七丁

生返書

八十九丁

十六日

既望

二十日

念日

三十日

晦、月盡日

朏

右返事

九十丁

火災ノ名義

九十一丁

右返詞

九十三丁

平表ノ章

九十四丁

月返報

總計六十四章

九十六丁

普通用文章

萩田長三編輯

四季之部

○年南文

風曆改端多里同風

茅少度ノ収小生

普通用文章

御陣家神以御禮
アサタサマノカヘ
 奉寄拜喜域志立是
イノチカキクニ
 誰も今も芽御志の安健
ワタクシカタ
 和馬留以正将者
ニトシラ
 宜下等以古村徳以礼詞
ハツハルノ
ヨロコビ

度謹呈 程管の恩
カシコシ
 惟枕首
オシギスル
サシアゲル
ミシシカキテガシ
カシコシ

正月

○右より名を了書

善物待候也
シゴトナル
オテカシ
オガミテ
ヨム

貴

流 履 瑞 舟 柳

高 門 以 特 安 寧 以 以

室 歌 事 以 以 以 以 以

無 是 以 以 以 以 以 以

以 以 以 以 以 以 以 以 春

室 松 末 融 以 自 本 有 以 以

以 味 以 以 以 首

吾 吾 吾 吾

再 白 河 近 智 以 以 以 以

以 以 以 以 以 以 以 以 以 以

此の生け物も元付
河精未だ起す中
ハヂイリ

○能く見舞文

一筆上り書き奉り
料

晴 大夏山静通

生け物も元付

号人舎尾主送元山精

可下山水 右山静通

お月夜如新 山静通

備 ナラズ

瑞月廿五

之白 ト 船見 カレ 航海術 ハナリノワザ 行 ケイコ

た イキヌ 行 ユキ 及 ソ 付 ソ

廿 ニ 年 ニ 不 ク 能 ク 也 ト

又 ト 留 マ 學 ブ 在 ル 舊 ク 港 ノ 前 ニ 矣 ト

同 ク 下 ニ 一 ニ 萬 ノ 年 ノ 以 テ 安 シ 矣 ト

終 ル 日 ナリ

○ 右 ニ 收 メ 之 ト 文 ト

乃 ダ 采 テ 之 ガ 相 ガ 痛 ム 之 ヲ 甚 ク 也 ト

以 テ 其 ノ 言 ヲ 下 ニ 誅 ス 之 ト 甚 ク 也 ト

此程暖和より生れ

明々々々々々々々々々

賞の老老は清道

有秋永却現河合息

西海の遊學より越は廣發

之般武之振任の定る大業

以成就計の昔何里の

づき二三回末を以留滞

毛下海遊以揚帆の何

角以多し也ま然不

此の^{ツナモノ} 村^{ツナモノ} 軒^{ツナモノ} 表^{ツナモノ} 録^{ツナモノ} 帳^{ツナモノ} の
 以^{ツナモノ} 定^{ツナモノ} 留^{ツナモノ} 置^{ツナモノ} 出^{ツナモノ} 給^{ツナモノ} ハ 面^{ツナモノ} 借^{ツナモノ}
 今^{ツナモノ} 拜^{ツナモノ} 啓^{ツナモノ} 年^{ツナモノ}
オサメ アラ アラ

一月六日

○人日友人を招く書

庭^{ツナモノ} 梅^{ツナモノ} 堂^{ツナモノ} 昔^{ツナモノ} 雷^{ツナモノ} 清^{ツナモノ} 香^{ツナモノ} 送^{ツナモノ}
 今^{ツナモノ} 日^{ツナモノ} 八^{ツナモノ} 拜^{ツナモノ} 儀^{ツナモノ} 五^{ツナモノ} 帖^{ツナモノ}
 同^{ツナモノ} 席^{ツナモノ} 今^{ツナモノ} 日^{ツナモノ} 合^{ツナモノ} 津^{ツナモノ}
 及^{ツナモノ} 巳^{ツナモノ} 牌^{ツナモノ} 下^{ツナモノ} 日^{ツナモノ} 宴^{ツナモノ}
ツナモノ ツナモノ ツナモノ ツナモノ ツナモノ ツナモノ ツナモノ ツナモノ

流^{リウ}流^{リウ}度^{タク}度^{タク}約^{ヤク}の^ノ比^ヒ併^{ヘイ}
セツコ
 席^{セキ}是^シ祿^{ロク}每^{マイ}座^ザ才^{サイ}時^ジ樂^{ラク}
ゴチウウケウリ
 宗^{ソウ}家^カ有^ユ供^{コウ}以^イ海^{カイ}之^シ言^{ゴン}
フトリモチ
 下^カ多^タ水^{スイ}母^ボ之^シ也^ヤ也^ヤ
トク

正月七日

○ 中 之 收 書

謹^{キン}啓^キ難^{ナン}進^{シン}佳^カ辰^{チン}辰^{チン}猶^{ユウ}
ツクミ
 寫^{シヤ}寫^{シヤ}同^{ドウ}學^{ガク}也^ヤ也^ヤ
サビシク
 通^{ツウ}通^{ツウ}有^ユ六^{ロク}浮^フ白^{ハク}仕^シ
カケラノム
 度^{タク}存^{ソン}住^{シュ}以^イ忽^{コト}衆^{シュウ}家^カ究^{クウ}招^{ソウ}
オマケ

雖有子孫マカリイデ 如紅日マカリイデ
 程橫港マカリイデ 針素竹水マカリイデ
 浮酒マカリイデ 瓶マカリイデ 貴後マカリイデ 付マカリイデ
 心マカリイデ 插マカリイデ 以マカリイデ 披マカリイデ 露マカリイデ 下マカリイデ 以マカリイデ
 書マカリイデ 本マカリイデ 抄マカリイデ 芝マカリイデ 下マカリイデ 下マカリイデ 旬マカリイデ
カキアマリハ オメニカハリ セイヤウ ガケ マツカヒ サシアゲ ワラヒグサ ヒラキ アラク

人ヒト
 〇 柳ヤナギ 香カ 苦ク 花ハナ 儀ギ 書シヨ
三月 セツク ノ イ ハイ
 重オモシ 之ノ 芳ホシ 辰ツク 花ハナ 柳ヤナギ 年トシ
 妍ケン 春ハル 色イロ 清スミ 山ヤマ 河カハ 以ヨリ 今イマ 夕ユフ
 初ハジメ 色イロ 夕ユフ
 園エン
コビラ ハル ケシキ ニヤマ カハ オム ス メ ゴ ゴカナイ ミナ サマ

以魚投糸下之堪感佩
ワカ マツリ
メクミテオクル

有乃年先思也
ヒトツクシ
コドモ

戲及所記意之足也
オモヒ
シニハイニ

河原野之思
カハノ
ステオキ
アツキナサケ

の事存心於持是下
オモヒ
オメニカハリ

海味ある事
ウミ
オシギシテ
フタビ
オカム

修禊
シウジ

看梅有清香
カン
ウメ
シロク

表之晴暖處之春
ウラハ
ハル
アタカ
アチ
コチ
ナタカキ

園菊も紅も昔より
ソノ
ウツクシ
アカミラ
ヒラキ

今午より散策遊覧
コノヒルスギ
ツエチヒキ
アヒヒアルキ

修之 唯快より有
オモシロク

河内 河内
イソギノヤウジ

信之 信之
オトモ

厨之 厨之
オトモ
イヒツケ

下 樓 人 風 雅 を 好
チヤヤアルジ
シヤレヲ

之 肉 旋 之 系
セワヤキ

是 也 中 下 品 也
ココロ
ツカヒ

是 也 乃 今 之 月 六 日
イソガシウ

右 復 書

非亭持彦如
オカテガミ
サシゲテヨム
オホセノ
カキ

宿白一書
ヨルノアメイト
ハレ
ナニモカモ

物も名も
オホ
ハナミ
カキ

部 結 縁
ハラク
アチコチスル
アセツケリヤウ
シヨウ
チ

之 從 源 審
オトモ
シヨウ
チ

竹 刻
サキ
ホド
カキ

款 段 二 匹 送 了 奉 白 達
トサ
ゴマ
サキ
ホド
ヒタリ
カキ

上 相 俱 了 揚 教 之 如 何
スチ
オホ
カキ

了 了 了 了 了 了 了 了
カキ

命 年 前 行 心 亦 未 了
ゴサ
タ
チ
ヒル
マ
カキ

お看^み平^び河^か管^{かん}量^{りょう}
オマニカノリ

心^{こころ}空^{くう}返^{へん}下^げ路^ろ

新^{しん}者^{しや}了^{りょう}一^{いつ}毛^{もう}紙^しの^の盡^{じん}
マフニツタ

四月

○右^{みぎ}よ^よ後^{のち}と^と文^{ぶん}

子^こ規^き一^{いつ}叫^{けう}忽^{とつ}地^ち以^い狗^{こう}
ホトギス ヒトコヘニ タチマチ

舟^{ふね}心^{こころ}惟^{ただ}一^{いつ}音^ね以^い解^{かい}
フネ サイシンク

纒^{りん}之^の趣^{すい}以^い之^の世^よ年^{ねん}於^お得^{とく}
ハラヒ

以^い以^い西^{せい}院^{いん}夫^そ之^の也^や能^ね程^{ほど}
ハカクイナカ

以^い熟^{じやく}一^{いつ}心^{こころ}遊^{ゆう}味^み之^の新^{しん}全^{ぜん}
ナシ

登一以之六六拜賀
の如新の如く
タミシカラテ

五日

○右に收書

忽ち乃良辰幸か
ヨモキチカケル

痴心カチナセガレ少存寄託
カチナセガレ

彩織ホはつはふ下厚
ホ

躬オレノイニ程謝名辭
オレノイニ

信オムラヒちまき二束以報禮
オムラヒ

とまき子名姓
オムラヒ

何有合名是正任以以候

留了字の毎々相肩

あなを旬

福名

○梅白人を招く文

徳白蒙之河山之光景

寒陽曲裡之趣をもつて

江州初春之者

是月新守法数境湖

魚を以て客事すなり

山あふあふあふあふ
山あふあふあふあふ
山あふあふあふあふ
山あふあふあふあふ

再云り外山あふあふあふあふ
再云り外山あふあふあふあふ
再云り外山あふあふあふあふ
再云り外山あふあふあふあふ

山あふあふあふあふ
山あふあふあふあふ
山あふあふあふあふ
山あふあふあふあふ

山あふあふあふあふ
山あふあふあふあふ
山あふあふあふあふ
山あふあふあふあふ

山あふあふあふあふ
山あふあふあふあふ
山あふあふあふあふ
山あふあふあふあふ

山あふあふあふあふ
山あふあふあふあふ
山あふあふあふあふ
山あふあふあふあふ

山あふあふあふあふ
山あふあふあふあふ
山あふあふあふあふ
山あふあふあふあふ

山あふあふあふあふ
山あふあふあふあふ
山あふあふあふあふ
山あふあふあふあふ

支那の文は格別上品

舞月

○右に招き進んでる文章

る窓の真の消息は
ありありと外に雅招き
アンガワイ オマ子キ

かじりて先刻に越極

滑筆字家来付人極

て母事許香品茶を

酒の味は酒の味

し香は酒の味

披雲夜半月同伴
イッニヨ
 針毫は度少許容
マカリイデ
 新牙白梅越人
マカクシ
 之不決る
サケヲダス
 水石
ツブサナラズ
 以真
エキゴノヒト
 忍
シニパイ

中夏

○大暑見舞書簡

鑲金
カキヲトカス
 遊屋
タチ
 起居
モセツ
 竹
キ
 本
ゴロ
 深
ドホ
 濶
トキ
 時
ニ
 下
子カ
 月
子カ
 所

初ハツ反ハシより遠とほ都みやこへ
 河カハ一ヒト目メの輝きら彩いろは
 将まさ日ひの心こころを早はやく
 速すみ急いそ堂どうと夜よを
 齋さい旅りょの足あしを
シバラ

時とき先まへの世よは
 業わざ前まへの志こころを
 古ふるい風味ふうみ昔むかしの
 敬けい重じゆうの行ゆき空そらの
 心こころを
 聊いささ消しょうす
チヨツトママ ナツヲワスレル

一助トヨともきよの毎々キヨク次ツギ
タスケ

六月

○おろきよの書

海況ウミシタ河見カハミ洞アナ音ネ傳ツタ々々

如ニ多ワタクノヤウス
多タツ子
苦ク哉カ傳ツタ々々難カタク

渡ワタ々々台ダイ所ショ河カハ傳ツタ々々由ユ

海ウミ々々幸サイ々々乃ノ以ヒ津ツ々々

以ヒ旅リ行ユク々々無ム河カハ々々状カタ々々由ユ

館カン々々越コ々々速ス々々以ヒ由ユ々々由ユ

下シタ々々以ヒ河カハ々々救ス々々魚イサ

普通用文

テガミヲクダサレ
ソノウヘ

源流を直截に河海
スミシキ ハナ
カメグミ
アリガタ
ツク
ガ
ア
シ

すなはち陰を忽ち清
タチ
マ
チ
ス
シ

其の心は如く時炎
アツキ
シ
バ
ラ
ク
ク
ア
ツ
キ
ノ

峰一帯をぐるぐる折角は
ア
ツ
キ
ノ
ア
ツ
キ
ノ

自源を待て書紙を
ヨ
ウ
ジ
ノ
ホ
コ
サ
キ
ド
コ
サ
キ
ヨ
ウ
ジ
ノ
ホ
コ
サ
キ

冒す所の
リ
テ
ニ
オ
レ
イ
ヲ
マ
カ
ス

林檎

○ 癖を治す
ア
ツ
キ
ヲ
サ
ス
ル

市街を熱く
ア
ツ
キ
ヲ
サ
ス
ル

烈火如く在火中
キ
ヒ
シ
ク
サ
カ
カ
ラ
ニ
カ
ニ
テ
キ
ノ
ナ
カ
ニ

キヒシク サカカラ ニ カニテキノナカニ

高居ハ何 嘆 泣 同 子 与
カナラズノツトナムキ
 幸 存 須 更 百 吐 成 排
シモヤシキ
 某 此 列 業 主 復 借 以 之
カカリウチ
 之 西 志 徒 夜 彼 の 物 之
タカドラン
 縁 村 統 管 於 此 亦 様
レラカニ

且 賦 以 之 可 有 之 者 亦 深
マコトニ
 老 見 之 角
アナタモ
 心 者 亦 一 入 懐 映 之 意
イッパツ
 之 以 映 亦 物 以 操 合 之 意
アラク
 之 亦 人 止 望 之 以 号
ニガヒ

平伏白

○吉返

法気毒人日々少様園

者死より銷暑を以て誘

難有き江此

鷹候者中より更なる清熱

之方々果水亭と南

邊果得る邊地

名者紅柳上

迷店より以て人

業方ゆき ちよき時
ナジミ トキ
 往來はる 寓中
ナグサシミモ トウリ
 佳無 松 隆 隆
ナグサシミモ
 以上 集 下 右 抄
ナカミ ムクユ
 のふ巻
ツマビラカナラズ

の巻 三日

〇 古く 人 家 遠より 又
タナバタ ムラサキ
 微雨 晴 今 新 橋 銀 漢
スコシノアノ
 架 一 台 風 存 傳
ガ ヲ
 天上 此 果 事 あり 人
ソラノハウ タノシシ

間もとふ事
 何ら弊一
 小橋を
 一田お借
 以何年
 以社中
 以済況
 以別社
 駕
 及も
 合以某
 方より
 席
 以揮
 直電
 お取
 及

日本銀行
 國章
 以務
 主

希以
 及も

星宮

倚
 者
 及も
 以
 雅
 延
 有
 算
 也

らん以付門頼頭り辱家

存以生将多昏より来

實有レ對酌多し早速

お神オホセニシタガヒ存サカモリ以しころ及あよび及ち速オソクナリ

以以形像ツクナキニサカ下セウ杜詩二首

先サキ流カキラアゲル上ナラシ心チニコロニ下ニ有ニ題ニ

融ウヤクシカラズ以キナウ多タ女メ名ナ

号セウ号セウ

○中元人ヒトを清シヨウまき

中元チウゲン子コ祥シヨウ多タ夜ヤ殊ジュ生シヨウ

当 未 退 之 事 以 清

穆 未 敢 以 味 之 爲 暮

土 皇 之 燿 燿 也 於 此 地

之 心 亦 無 所 異 乎 然

ハ 兎 女 也 居 之 月 中

歌 舞 之 趣 向 於 方 以 進

深 之 事 以 枉 歎 之 事 也

名 亦 不 異 乎 厚 賜 也 乎

名 亦 不 異 乎 厚 賜 也 乎

之 事 以 枉 歎 之 事 也

居るに振西より封集に任
アキキ ニギリ せんりち あひ さき たう らふ まう
 世分るるにのみさるるに
せん さ せん せう らう
ソナテサシアブル オニオサノ
 集るるに
らん ら

○ 後書

寺のまにまに朝来り
オニテガミ まう ぢ せん ら ま ら ま
 寺のまにまに朝来り
オニテガミ まう ぢ せん ら ま ら ま

日忽送秋新涼
ヒ タチ タチ タチ タチ タチ タチ タチ
 日忽送秋新涼
ヒ タチ タチ タチ タチ タチ タチ タチ
 以園竹少細
ヒ タチ タチ タチ タチ タチ タチ タチ
 以園竹少細
ヒ タチ タチ タチ タチ タチ タチ タチ
 礼以孟蘭盆令
ヒ タチ タチ タチ タチ タチ タチ タチ
 礼以孟蘭盆令
ヒ タチ タチ タチ タチ タチ タチ タチ
 竹一
ヒ タチ タチ タチ タチ タチ タチ タチ
 竹一
ヒ タチ タチ タチ タチ タチ タチ タチ
 懸定るる
ヒ タチ タチ タチ タチ タチ タチ タチ
 懸定るる
ヒ タチ タチ タチ タチ タチ タチ タチ
 神靈
ヒ タチ タチ タチ タチ タチ タチ タチ

自然幽懐
 見お見えお
 当刻
 興秋
 馬カリイデー

○ 看月書

秋風雲霧
 年
 中

ト々及萬も有る是下者

東海山崎風集も志可

おきり物も丹

いづも花細お雁度

以物年々六以親遊

下以海曲叙あ電

旬

月望

有波

雅延月之展は是以付

小集の今一徹曉の劇
 飲今も其宿醒く其味
 平臥を寝る連々趣
 此就其味奪も其味
 今も其宿醒く其味
 徹曉の劇
 飲今も其宿醒く其味
 平臥を寝る連々趣

陪侍をまきり保次風
 能程は一とバウ奇
 加賀の二更吹雪
 秋
 能程は一とバウ奇
 加賀の二更吹雪
 秋

○重徳の文

高き佳言は祝詞

上は東の離るる香菊の香

つまじつ支枝お取

敵とては能くしるは菊よ

お成る大幸今年も今自

ま天の氣も快晴は

山は菜葉もと吹く挿む

の扱事ハ姑く置

あはれと相軍は采

一興オモシロク 万々オモシロク 之シ 邦オモシロク 痛オモシロク

者オモシロク 万々オモシロク 子オモシロク 以オモシロク 果オモシロク 一オモシロク 不オモシロク

中オモシロク 遣オモシロク 憾オモシロク 以オモシロク 辨オモシロク 矣オモシロク 不オモシロク 可オモシロク 少オモシロク

已オモシロク 凋オモシロク 一オモシロク 首オモシロク 禄オモシロク 上オモシロク 以オモシロク 各オモシロク 行オモシロク 正オモシロク

下オモシロク 以オモシロク ねオモシロク 白オモシロク

九月

○同オモシロク 如オモシロク 一オモシロク

重オモシロク 九オモシロク 人オモシロク 令オモシロク 辰オモシロク 早オモシロク 朝オモシロク 升オモシロク

堂オモシロク 考オモシロク 及オモシロク 於オモシロク 且オモシロク 以オモシロク 是オモシロク 之オモシロク 痛オモシロク 痛オモシロク

神オモシロク 心オモシロク 不オモシロク 同オモシロク 以オモシロク 却オモシロク 傾オモシロク 以オモシロク 書オモシロク

オモシロク

問ふ事は、オトヒ 佳竹及菊

を、ケ 道、ケ 可、ゴシサク 外、アンガワイ 厚

海、ニフカクオレイ 高、オニハサキ 園、ツチ 地

青、アブラツヨク 腹、ツチカヒ 加、ヤシナヒ 培、ツチ 善、ツチ 行

届、キヨキニホヒ 遠、ツチカヒ 引、ツチカヒ 清、ツチカヒ 使、ツチカヒ 多

事、ゴシサク 乃、ゴシサク 河、ゴシサク 作、ゴシサク 数、ゴシサク 行

小、コ、ロム子 派、コ、ロム子 暢、コ、ロム子 行、コ、ロム子 深

遠、カニシニテウ 或、カニシニテウ 今、カニシニテウ 行、カニシニテウ 深

一、カニシニテウ 瓢、カニシニテウ 若、カニシニテウ 腹、カニシニテウ 行

尖、メニアゲラレ 骨、メニアゲラレ 了、メニアゲラレ 乃、メニアゲラレ 行、メニアゲラレ 曲、メニアゲラレ 暗

オメニウリテマフス

書道

○書道
今社
書道

謹修
下
一以
時節
率

晴
如
雲
之
凡
貴
卷

行
一
統
以
平
善
之
之
之

彼
曜
之
之
之
之
之
之
之

少
長
眠
今
之
常
一
之
之

山
將
以
細
念
之
市
之
之

陳
之
道
白
由
之
之
之
之

每
月
書
畫
少
集
之
之

某元人等計之
 今社者建各名幾許
 利息を
 諸費を補
 以
 及

日毛月樓より合
 議は及午牌より過
 記
 記
 記

十月
 有よ美子

酒池 醉 狂 淫 浪 以 是

抄 貴 福 祿 緯 帳

以 哉 穀 以 爲 祥

頤 鄙 唯 知 然 以 傑 尚

あ ん ね ち ち ち ち ち ち

下 水 儲 他 台 側 下 遊 以

書 畫 每 月 會 小 人

以 之 法 以 元 以 有 以 就 以

花 月 樓 以 有 有 有 有

以 涼 卷 任 以 以 以 以

上物休ぬまはる程
ヤクムキ
 都兵の守時刻
ゴウ
 番詰おぬまはる
ナニカ
ウケタマハリ
アラク

小春

○ 冬玉舎文

一陽未復佳辰
イチヤウ
 空初端青
ソラ
 消息已及南枝
シウ
 多陽之社
タヤウ
 詩歌よ
シカ
イホリ
ゴトモ
ダチ
タノシ
シ

山鯨と針束もろく
イノコジ、モラモロ
 吾人の家光もろく
アナタモ、イデウキ
 一入清無と増守と
オモシロク
 多きも多き、多きも多き
ツキダシナガラ
 如河にふりもつる

至日
ゾロ

○右ノ答也

河海持産る気地
テガミ、サゲテ、ヨム、ハル、キ
 多生に河為定味
アラハ、ゴ、オキ、フシ、ヤス
 暢事欣振以母台もろく
ラカニ、ニヨロコビ、トウジ

此招飲よお伴^{おん}二紅^{こう}
 酒^{さけ}中^{ちゆう}辱^{じやく}今^{いま}及^{およ}年^{ねん}終^{しゆう}
 明日^{あした}以^も來^{らい}閑^{かん}暇^{あひだ}よ^や在^あ
 之^{こゝ}風^{かぜ}雅^{みやび}ハ^ハ解^と且^{かつ}因^{ゆゑ}
 念^{しん}見^{けん}之^の高^{たか}遠^{とほ}よ^や陪^{ばい}
 念^{しん}見^{けん}之^の高^{たか}遠^{とほ}よ^や陪^{ばい}

此見忍入^{しん}之^の諸^{しよ}志^し先^{せん}
 生^{せい}以^も今^{いま}人^{ひと}合^あ之^の言^{こと}子^こ之^の
 河^か東^{とう}流^{なが}る^る海^{うみ}に^に能^{あた}及^{およ}蒙^{もう}
 面^{めん}急^{きゆう}破^は下^{した}江^え以^も紹^{しやう}文^{ぶん}
 有^あ年^{ねん}伏^{ふく}邪^{じや}以^も去^こ中^{ちゆう}傳^{でん}

のふ穂る句

二月

○ 舟燈よかそ善茶

夜山ちるし修と文

寒林 飄雪を風光 霜

葉雨ふそと雪の母次ハ

や河溜日らぬと孔あ糸

舟燈をほとひす社伝

斗室 教破と付 某 祥

堂と社中 甲五海平 辰

月夜に善茶お供し
 度々なる人未幾去
 可推考法ぬぬ
 之不平少くは歸交
 半漸志は以て手筋ま

右に始末は中一は許容
 一は凡そ是れ六也
 堵は且本日ハ返侮
 一は貴法はま及手
 伏葉水素何の備

暢月

○有よむく月書
 采花披某山寺
 其香采之雅供以
 惟之其祥志肉提

其花御裁其審
 其倫少之詩畫をも
 好古之雅之近
 来支那之渡り江蘇

遊ケイ経ケイ磨レキ洞ドウ窓マド為ナリ窓マド

ちと持チ師シりリ以イ圖ト一イチ也ヤ

旅リョ来ライ之シ疏ソ菜サイもモ也ヤ

厨チウ裡リ之シ之シハハ新シン奇キ

趣ソウ向コウ之シ也ヤ波ハ子シ遠エン来ライ

老ラウ一イチ至シトト以イ短タン暑ショ

時ジ言ゴン早ソウ晨シンよりヨリ以イ移イ

玉タマ子シ奴ヌ以イ有ユ也ヤ

以イ月ゲツ

○ 字ジ中チュウ細サイ微ミ細サイ細サイ

寒氣栗列巻以勝
 常言互欣慰
 先述より権の謝答
 此學書之校正
 接り頗多冗る終る人

教河能公名中以疎
 敬之眾以海之可也
 小色一氣時解之
 人年才教缺以割意
 至以終以保至其意

新水之秋

赤平月

○全收書

雅教董誦之

字之勅止之佳函

盡無重之遊心一

安健之休之以下時

之見年之小箱一

使之信與之系好

家文之明之開和事

件けん一いち月げつ雪ゆきをを衝つき
 山さん北ち駿しん香か下か野の城じやう留りゅう中ちゆう
 長ちやう考かう祇ぎ行ぎやう化か石せき均きん毫ごう
 長ちやう河か原げん三さん毛もう一いち程ぢやう中ちゆう
 丁てい六りく大たい老らう又また三さん毛もう一いち程ぢやう中ちゆう

書しよ外がい面めん海かい行ぎやう奔ほん
 石せき年ねん抄せう今けい知ち七しち
 親しん雪ゆき清せいひひ章ちやう
 浪なみ盡じん思しとと成せい朝あさ来らい
 明めい夜や大たい雪ゆき四し山さん一いち白はく
 浪なみ盡じん思しとと成せい朝あさ来らい

書

五十一

好酒を好む先之ども
ソノミカ ソノミカ ソノミカ
 齒興ツキ 杉末スギノヘ 老野オノノ 時侯トキ
イナガ ツギ オノノ トキ
オモミ ミロサ ヤマリ ヌエ ミナラク クニガエ
 海女ウミメ 樽ツクリ 貴位キイ 及存ヨクゾク 水ミヅ
ミナ ツクリ キイ ヨクゾク ミヅ
 以ヨシ 係ケイ 物モノ 無ム 行ユク 玉タマ 子コ 魚イサ 背セ
ヨシ ケイ モノ ム ユク タマ コ イサ セ
サシツ カヘ アツミ アルキ オテ ケ コ ツキ ヤ エ
 お梅お梅 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃
お梅 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

小野生コノノ 志シ 掛カケ 付ツケ 空カラ 鞋カブ
ワタクシ トシヨリノアシ イデ ウキ カラ カブ
 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃 乃乃
乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

梅車^{うけ}の^{うら}花^{はな}の^{さき}年^{とし}
瑞^{みづ}月^{づき}

○おめか〜

観^{かん}雲^{うん}の^{うら}波^{なみ}の^{うら}子^こ夜^よ
今^{いま}朝^{あさ}より^{より}様^{さま}

思^{おも}敬^{やう}の^{うら}勤^{ごん}ま^まの^{うら}付^つ高^{たか}
門^{かど}を^を射^やる^る女^めも^も存^{ぞん}在^{ざい}

うらまは^{うらまは}住^{すま}の^{うら}ま^ま直^な子^この^{うら}嘉^か
美^みを^を披^ひま^ま倍^{ばい}沿^{えん}下^げの^{うら}肉^{にく}

一箇の道に
 今も 婦人 大に 村
 多分 山陰
 未だ 海に 席に 注物
 五匹 六匹 何 茶 趣 年

了了 町 次
 去月
 オジギスル

○ 茶 末 一 志 積
 鳥 毛 兎 注 一 年 山 主
 善の 心 屋 字 名 繁

樹 下 葉 如 生 葉 如 葉
 秋 嵐 山 香 楓 色
 心 洞 心 意 計
 写 未 未 未 未 未 未
 池 主 人 便 一 事 一 事

台 各 各 各 各 各 各
 夜 夜 夜 夜 夜 夜
 化 变 以 様 烟 心 以 心
 喜 喜 喜 喜 喜 喜
 と 各 各 各 各 各 各

海石

○ 海石 收する文

海石 石類 海石 石類 海石 石類

海石 石類 海石 石類 海石 石類

海石 石類 海石 石類 海石 石類

海石 石類 海石 石類 海石 石類

海石 石類 海石 石類 海石 石類

海石 石類 海石 石類 海石 石類

海石 石類 海石 石類 海石 石類

海石 石類 海石 石類 海石 石類

培畦を以新河を煮

知より口を程女に

を小敵星はの西角

下は才女早まよお

何お角日衛少送を

遊の如堂

海

雑之部

事考のよむ文

未得年芝を再望り

培畦を以新河
カキラ

知る程
カキラ

とる
カキラ

下は才女
カキラ

何れも
カキラ

雑之部

遊の字
カキラ

ソカ

来月の
カキラ

未得年
カキラ

綾あやのの素す

雷かみなり石いし通とお

幽ゆうのの集あつ

景けい慕ぼ孤こ立た

以もつ所ところ偶ぐう然ぜん

貴き心こころ甘あま矣や

少すく曲まが令しやう紅こうと付つ

居い突つ

先まづ儀ぎ及およびびととるる

紙し子こおお

於お方かた集あつりりのの心こころのの後あと

未いま時ときとと越こ福ふく親おや孝こゝろ

以もつ意い通とお及およびび心こころのの通とお

下したるる布ふ帳ちやうととるる

町まち以もつ

○ 古く復書

高女取辱威及於
 諸所念定其物
 以法年事新以完
 社中より其書
 大早名

悔心ありて
 竹中細河手帳
 志者として
 諸君に
 謝意あり

普通用文

六

子あ旦る菲ひ木さ海げん学がく漸ぜん

汗あせ子こ心こころ子こ心こころ子こ心こころ子こ心こころ

子こ心こころ子こ心こころ子こ心こころ子こ心こころ

依よ持も子こ心こころ子こ心こころ子こ心こころ

重ちゆう子こ心こころ子こ心こころ子こ心こころ子こ心こころ

蕭せう後ご

○義ぎ建けん建けん子こ心こころ子こ心こころ

乃の子こ心こころ子こ心こころ

一いつ筆ひつ子こ心こころ子こ心こころ子こ心こころ

遷せん関かん化か進しん子こ心こころ子こ心こころ

カハカリ ヨリアヒモ...

まゝ学校無様

おのゝ産物も存りな

りまゝに會社も結び

義塾建立之位及幸

然教師ハ某先生也

招待状中ハ東条志

家規則を取捨い

たしむる都合も宜敷

急速に御名状を蒙

り候間早

イソキヤ

ナカマイリ

ハヤク

チ センセイノ

オキテ

ヨキトコヲ

ウマ子ク

ケイバノウチ

アチユ

ハヒ オシユル

タテル

サイ

ハヤク

不^さ以^ご在^し席^{せき}以^いつ^ち後^ご可^き

以^いつ^ち後^ご可^き以^いつ^ち後^ご可^き

○古^こ一^{いつ}函^はを^を

身^み方^はら^らと^と是^こを^を禮^{れい}儀^ぎ義^ぎ塾^{じゆ}

以^いつ^ち後^ご可^き以^いつ^ち後^ご可^き

多^た多^たあ^あと^と及^及の^の以^いつ^ち後^ご可^き

友^{とも}人^{ひと}果^はも^もと^と殺^{ころ}書^{しよ}者^者

地^ち小^{せう}監^{かん}當^{たう}と^と以^いつ^ち後^ご可^き

知^ち後^ご元^{げん}廣^{くわう}の^の以^いつ^ち後^ご可^き

及^及先^{せん}普^ふ通^{つう}以^いつ^ち後^ご可^き

レ
チニヲヒラク
イチバンニ
ナニモカキ
ユキヲカル
ケイコ

ムラ
チ
ガクモンル
ケイコ
オシヒロメ
セツチ

オカン
テガミ
ヲク
レタル
ニクニ

オカン
テガミ
ハハ
ケニスル
オモヒツキ

オカン
テガミ
ハハ
ケニスル
オモヒツキ

オカン
テガミ
ハハ
ケニスル
オモヒツキ

取掛り下松越以凡

そ程と能く行あり

うまじふ及合ん感力

正お能く用ひ居り

作付度より程殊

眉集り下用ひ乞

○ 思重入学位款

の書

是も消燈りるん

生以候燈りるん

今年七巻の出版は、
 貴社に於いて、
 最良の結果を得るに
 努められたる事、
 甚だ喜ばしく、
 誠に御礼申し上げます。

オテマヘノゲイコバ
ホシニ
ヤウ
オノナリユキナレバ
イギリスフランスノシヨモツ

貴社に於いて、
 最良の結果を得るに
 努められたる事、
 甚だ喜ばしく、
 誠に御礼申し上げます。

ヨ
テナラ
チカクニ
ホシ
ホシ
ホシ

何れも如新の如く
水

有る拜英

○今函書

知書是之補

志屋

是は佳函也
然水

何令嗣
宿之也
以比併
角
くた
生
審
水

紙イマツの裏ウラに方カタ刺シ刷シ

付ツキし乃ナ紙カミを紙カミ

平ヘイ一イチ有アる

○古コよははる者モノ吹フク

本ホンより里サト竹タケ勸クワン室シツの

お月ツキに外ソトなるは書カキ

洞ドウの強ツヨクり又マタは紙カミ却サカ

沈シヅムる者モノは紙カミを紙カミ

紙カミの裡ウラに方カタ刺シ刷シ

子コ時トキ好ヨクむ板イタに字ジを

書道月文

六十一

流行り可紅獨産素の
ヨクウレ

たぶろの
オトナ

心解益少断子
オカゲニアツカル
ナ

存右板下北隆下紅
オチセツケ
ナ

板下付源洋信存
ニヨウ
チ

く程年一
ガ
ヒツ

若知也
ホ子ヲオリ
シニセキ
レ紅台地
グルニキ
子

目力輝
フダツカヒ
コカタナサキ
剛
ナホ

淫
シヤ
ヤ
レ紅刻
ホリ

名
シヤ
イヒツケ
ト
京
レ

福^{トシラ} 咄^{オメニカ} 々^リ 咄^{ウラ} 々^{ウラ} 咄^{ウラ} 々^{ウラ}
 咄^{ウラ} 々^{ウラ} 咄^{ウラ} 々^{ウラ} 咄^{ウラ} 々^{ウラ}

〇 咄^{ウラ} 々^{ウラ} 咄^{ウラ} 々^{ウラ} 咄^{ウラ} 々^{ウラ}

咄^{ウラ} 咄^{ウラ} 咄^{ウラ} 咄^{ウラ} 咄^{ウラ} 咄^{ウラ}

年^{子ニナル} 咄^{ウラ} 咄^{ウラ} 咄^{ウラ} 咄^{ウラ} 咄^{ウラ}

咄^{ウラ} 咄^{ウラ} 咄^{ウラ} 咄^{ウラ} 咄^{ウラ} 咄^{ウラ}
 咄^{ウラ} 咄^{ウラ} 咄^{ウラ} 咄^{ウラ} 咄^{ウラ} 咄^{ウラ}
 咄^{ウラ} 咄^{ウラ} 咄^{ウラ} 咄^{ウラ} 咄^{ウラ} 咄^{ウラ}
 咄^{ウラ} 咄^{ウラ} 咄^{ウラ} 咄^{ウラ} 咄^{ウラ} 咄^{ウラ}

有 カキ 老 オモキ 兒 コノミ 氏 ウヂ 子 シ 孫 ムナ 孫 ムナ
新 ニ 之 ニ 年 トシ 幸 ワケ よ 向 ムカ ひ し
越 ワスレ 去 シ 道 ミチ 狂 キヤウ 行 ユク 函 カン 吹 フキ
家 ケ 族 チウ 犬 イヌ く り 一 イツ 回 ヘ
ち チ 又 マタ 仁 ニ 厚 アツク く 志 シ 飲 イン 一 イツ
オホキニヨロシム

矣 ヤ 松 マツ 一 イツ 出 デ ひ 時 トキ 又 マタ 野 ノ 生 ナ
近 キン 日 ニチ 睡 スイ 俗 ソク 一 イツ 裁 サイ 兒 エ
紫 ムラサキ 葉 ハ よ 秀 ウツクシ く 色 イロ 一 イツ 屋 ヤ 及 オ
の 密 ヒソカニ 美 ウツクシク 公 キミ 舟 フネ 壺 ヒラ 了 ヤ
一 イツ 桑 ササキ 樹 キ を 種 タネ 以 ヲ 植 ウヰ け

け 善 藝 術 海 鬼 船 主
カヒコヨカフコトヲ リヲキハメル
 以 交 新 藝 明 義 矣
カニシシ
 頗 多 之 就 中 際 要
カニシシ
 之 事 之 著 一
カキアラハシ
 家 之 微 益 之 供 一 及 國
ワツカニテモトクニ ソナハ

之 事 之 著 一 及 國
コニロ
 支 之 事 之 著 一 及 國
セケンハ
 雖 亦 何 事 以 况
カニシシ
 亦 亦 何 事 以 况
カニシシ
 亦 亦 何 事 以 况
カニシシ

一 かん しやう
旦 たん たい
大 たい
正 せい
心 しん
道 だう
々 々々

一 かん
旦 たん
大 たい
正 せい
心 しん
道 だう
々 々々

一 かん
旦 たん
大 たい
正 せい
心 しん
道 だう
々 々々

○ 古 返 唱

一 かん
旦 たん
大 たい
正 せい
心 しん
道 だう
々 々々

一 かん
旦 たん
大 たい
正 せい
心 しん
道 だう
々 々々

書 しよ
箱 しやう
の の
日 にち
封 ふう
名 な
帳 じやう

打 うち
関 かん
門 もん
下 げ
筆 へつ
善 ぜん

一 かん
旦 たん
大 たい
正 せい
心 しん
道 だう
々 々々

存 ぞん
の の
借 かいく
巻 まき
別 べつ
糸 いと
糸 いと
立 たて

一 かん
旦 たん
大 たい
正 せい
心 しん
道 だう
々 々々

此の念下官を
 東上は喜ぬ
 河原を六人
 もふを道
 御は所
 スコニテモ
 コロニカハヒタルバ
 テガミヨアケテト
 コトノハマガク
 シンハイイタシ

法と因縁
 る砂は舟
 追来
 必は
 天
 マハリドホクツタナキニテ
 コホウニウ

治 未 然 之 事 勿 論
シミチ コトニオラズ

し 中 道 多 窮 固 且
シミチ コトニオラズ

憫 然 之 事 以 相 見 及
ビシニ

悔 之 其 心 亦 不
クニル アハレミナテ

亦 不 中 之 田 舎
ナキ

答 其 以 自然 之 大 事
ウブナマモリ オノツカラ チニヨリノサイハヒ

了 有 之 時 之 事
カヒコラフ

精 神 之 勉 勵 之 事
カフコラフ

人 未 考 之 甘 論 亦
ヒトクチ マダ ミヒラカズ

一 以 其 方 者 之 程 亦 亦
シテ

普通用文

七十五

本年同僚の修程精
トモダチノヤクニシ
 密に万有の善遠を
 加剛に致しおれを
 名は彼由ら名は
 尚の第一に修副
コノゴロ

外國の修程の
 本年の修程の
 修程の修程の
 修程の修程の
 修程の修程の
キマリナキ

老き形をくま

海白糸綉園一映稿

畫王深少重思程くま紅

波出れそ時形をくま

草人情風行心志像へ

レシのふみ

○物を借と安

甘茶氏帰朝後始る

来訪るすき煮後

この丈に付ありそ西洋

普通用文

イギリス フランス

寧ろ此へ清く作らば
 戦年の無事なる事
 ありあはれし事なり
 別々思ひ合はれり
 益々其の具お積り
サマ
チヤヲ
ニル
ドウグ
ヒト
クミ
オ
カシ

形乃事なり中々
 相もよもの事なり
 厚紙の西巻の事
 〇布匹の事
 米を以て以て
ソコツナノ
コノヨハ
オメニカ、リマフシアゲル
ウチノ

孝子 以佳 招身 者 海
こうむり ごとく マ子キ 招く 身者 海
 あり 終る 業 憾 意 不
あり 終る 業 憾 意 不
 あり 海 之 高
あり 海 之 高
 淡 々 々 未 叶 見 の 事
たん 々々 未 叶 見 の 事
シタコトモキナコトモナキ

海 山 一 葉 一 花 之 水
たいざん いちよう いちげん 一葉 一花 之 水
 一葉 一花 之 水
いっぺん いっげん 之 水
 以 父 母 不 事 為 親
いよ 父 母 不 事 為 親
 海 山 一 葉 一 花 之 水
たいざん いっぺん いっげん 一葉 一花 之 水
カズミテオカケトリ
アラシ

○水 鳴 流 文

同 心 文 圃 為 之 め 々

了 意 以 來 一 望 物

出 不 之 女 苦 禱 鄰 邑

と 志 嗚 呼 泣 一 乞 泣

コトナレタイシヤ タノミ レウチル タノミ

了 意 以 來 一 望 物

出 不 之 女 苦 禱 鄰 邑

と 志 嗚 呼 泣 一 乞 泣

了 意 以 來 一 望 物

出 不 之 女 苦 禱 鄰 邑

今世は相成るる程
 之を以て早急なる
 事なれば時刻
 以て急務なる者なり
 ○ 日収

河野氏夫人
 貴女は早急なる
 事なれば時刻
 以て急務なる者なり
 密告ありて明

早福流まをほ経縁
アサハヤク
 下妙如少山道も
このたひ
 患者ありお集まらば
くん
 何方あり時刻通
ビヤウ
 のあとも難治之六輪
カゴカキノヒト

まはるる向ふ及ふに
 旬

〇病見見舞文
ビヤウ
 名悪道有月時
アチタノビヤウキ
 河下科下河能文
ヨウス
チカゴロ
ニワカミヒスル

本
 二
 八
 三

如勃之 兕角者 猪

ツトメキガイリガハシウテ
マツルリ 十ニゴ
マツルリ
ツル
ツル
ツル

天 氣 之 温 凉 矣

序 之 始 之 終 之 末 矣

ナラズ
ツラアヒ
ヌクサ サムサ
ツ子
ツ子

精 之 所 生 者 也

精 之 所 生 者 也

精 之 所 生 者 也

精 之 所 生 者 也

精 之 所 生 者 也

聖徳太子は魔留すべし

阿羅

○古くは書

老幼は子に

あはれむ

アツキナサケ

ニカニ

以て先づは

ハ飯程は

仕進は

一河は

宗室は

ナホリニクキヤマヒ

キツカヒ

オイヤノレウチ

平並月...

大々西馳有熱氣

消滅消る合味生じ

音早回令と推転工

とハ一々者も責

く父年とと将因方

志下万為ぬのぬ又
少色以是つ美河魚
投下高と所まり
寸人年と小快起可
鏡非有古古直はの直

普通用文

...